

地域医療へ貢献できる急性期病院の 役割を果たす取り組みについて

椰野 由美

(学校法人藤田学園藤田医科大学 岡崎医療センター
地域医療連携部 医療連携室 課長)

医療経営士3級
認定登録番号：
32310023010203

【背景】

当エリアは、地域医療連携推進法人制度化を地域の協力で逸早く実現できたことや、開院直前に横浜港に帰港したクルーズ船COVID-19無症状感染者と濃厚接触者128名の受け入れをさせていただいた経緯がある。

【目的】

400床ある地域医療支援病院として開院6年目を迎えたが、開院3年目より、7,500件を超える救急搬送に対応している。病床稼働率が100%を超えることもあり、地域の急性期病院としての役割を果たせないという問題があった。

また、外来患者も800人を超える日が増え、外来の待ち時間が長くなり、予約取得までの期間も長期となる診療科も増え、地域の急性期病院として早急な後方連携および逆紹介強化が必須となった。医療連携室は、地域医療に貢献する目的で逆紹介強化の取り組みを行い、更なる紹介患者の受入れを行う。

【実施方法】

逆紹介の取り組みとして、全診療科ごとに診療と処方みの患者リストを作成し、看護部・医事課と協働で医師へ対象患者を知らせる。医師は対象患者の中から、症状の安定した患者については、紹介元への逆紹介をする。かかりつけ医のない患者については、医療連携室にてかかりつけ医相談窓口にて医療機関選定を行う。

院内周知として、電子カルテ画面へ逆紹介推進のポップアップを表示、電子カルテを立ち上げる度に

表示し医師への周知を行った。また院内の会議体での周知も行い、病院全体の逆紹介推進の意識向上を図った。

紹介患者増加の取り組みとして、定期的な紹介患者の実績等の分析を行い、医師同行訪問を強化し、地域との連携を強化した。紹介いただける医療機関への広報紙、地域住民向けの広報紙を作成。知名度アップを目指す広報活動を行った。

【実施期間】

2025年1月より現在実施中

【考察・結果】

紹介・逆紹介とも、数字を示すことにより、医師に理解いただくことができ、協力を得ることができた。医師や看護師へのヒヤリングを行うことにより、スムーズな運用を提案できた。多職種で取り組みを行うことで、病院全体の取り組みとして認識され、紹介・逆紹介とも成果を得ることができたと考える。

学校法人藤田学園法人为本部経理課より6年前に、藤田医科大学病院総務課へ異動。翌年には、現在の藤田医科大学岡崎医療センター総務課へ異動となり、ダイヤモンド・プリンセス号の受け入れを経験。3年前に現在の医療連携室へ異動となった。